



第 20 回日中韓 3 か国地方政府交流会議

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

会議 20 回目の節目の年

2018年10月17日(水)から21日(日)までの5日間、中国河南省開封市において、第20回日中韓3か国地方政府交流会議が開催されました。

当会議は、日本、中国、韓国の3か国の地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的として、自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・大韓民国市道知事協議会が輪番制にて、1999年から毎年開催しており、今回で記念すべき20回目となりました。

開催地の開封市は、北宋の時代に東京と呼ばれ全国の政治、経済文化の中心的な都市であった建都4100年以上の歴史と文化がある都市です。

今回の会議では、417名(日本74名、中国249名、韓国94名)もの参加者のもと、「北東アジア地域における互恵的連携協力体制の構築」をメインテーマとした基

調講演および主旨講演のほか、日中韓3か国地方政府が興味・関心を寄せている3つのテーマ(「伝統文化と文明進歩」、「環境保護と持続可能な発展」および「スマートシティと科学技術の進歩」)の事例発表を行いました。

会議初日には、開封市主催の歓迎レセプションが盛大に催され、各国の地方政府関係者の交流が深められたほか、レセプション後には、開封市のお祭りである「第36回菊の花文化祭開幕式」への招待があり、歌や踊り、曲芸などの絢爛豪華なショーによる手厚い歓待を受けました。



第36回菊の花文化祭開幕式

本会議の主なプログラム
「北東アジア地域における互恵的連携協力体制の構築」 基調講演 中国国際問題研究院世界経済・発展研究所 所長 姜躍春 主旨講演 [中国] 浙江省義烏市党委常務委員、副市長 多佳 [日本] 佐賀県多久市長 横尾 俊彦 [韓国] 江原道行政副知事 宋錫鬪
テーマ講演 1 「伝統文化と文明進歩」 [中国] 河南省開封市長 高建軍 [日本] 岩手県副知事 千葉 茂樹 [韓国] 忠清北道永同郡郡守 朴世福
テーマ講演 2 「環境保護と持続可能な発展」 [日本] 愛媛県特別参与 上甲 俊史 [韓国] 忠清南道唐津市市長 金洪權 [中国] 内モンゴル自治区外事弁公室 主任 傅永春
テーマ講演 3 「スマートシティと科学技術の進歩」 [韓国] 慶尚北道仕事経済産業室長 宋局昌 [中国] 広西チワン族自治区梧州市 外事僑務弁公室主任 韋憲森 [日本] 福島県南相馬市副市長 松浦 隆太

主旨講演

会議2日目の主旨講演では、各国の代表者がメインテーマに沿って発表を行いました。まず、中国・義烏市の多副市長から、世界的な日用雑貨の物流拠点である義烏市の貿易への取り組みのほか、日韓と大学提携やビジネススクール設立など教育面の交流を推進したいとの発表がありました。続いて佐賀県多久市の横尾市長からは、儒教の創始者である孔子とゆかりのある多久市ならではの孔子の学びを通じた中国・曲阜市との友好交流事例と儒学を基礎としたネットワーク形成について発表がありました。韓国・江原道の宋副知事からは、2018年の平昌オリンピックがもたらした成果とオリンピック後のグローバル戦略マーケティングについて発表がありました。



横尾市長主旨講演

テーマ別講演

サブテーマ「伝統文化と文明進歩」では、まず主催地である中国・開封市の高市長から、北宋時代の海上シルクロードを通じた日韓文化交流および繁栄を踏まえた上で、一帯一路に基づいた発展施策について発表しました。岩手県の千葉副知事は、県の伝統文化として酒米「結の香」を使った日本酒、南部鉄器および生漆を紹介し、伝統文化を活かした中韓との交流について発表しました。また、韓国・永同郡の朴郡守からは、伝統音楽である国楽を活用した地域活性化の手法について発表がありました。

「環境保護と持続可能な発展」では、愛媛県の上甲特別参与から、公害を克服した瀬戸内海の歴史を踏まえ、低炭素社会、循環型社会および自然共生社会の実現に向けた取り組みの紹介がありました。韓国・唐津市の金市長は、持続可能な開発目標（SDGs）を用いた「唐津市持続可能な開発基本計画」の主要事例を発表しました。中国・内モンゴル自治区の傅主任は、砂漠化防止・回復のための施策を紹介しました。

「科学技術とスマートシティ」では、韓国・慶尚北道の宋室長が、スマート工場およびスマート都市などの第4次産業革命への取り組みについて発表しました。中国・梧州市の韋主任は、市民向けのデジタル情報提供システムの構築に伴う成果について発表しました。南相馬市の松浦副市長は、東日本大震災からの復興を進めるうえでの新たな取り組みとして、再生可能エネルギーの導入のほか、ロボットを核とした技術革新や産業集積によるまちづくりについて発表しました。

各サブテーマの事例発表が行われた後は、テーマ講演の登壇者9名に対する質疑応答が行われました。参加者からは、発表内容はもとより、各都市の姉妹都市交流に関する質問があがるなど、活発な様相を呈しました。



サブテーマ登壇者9名による質疑応答

交流広場

本会議終了後には、自治体同士で交流する場として交流広場を設けました。交流広場では、普段顔を合わせる機会が少ない友好都市の担当者同士が、今後の交流方針や交流内容の打合せを行う場や、新たな交流を希望する自治体へのアプローチを行う場として利用する自治体の姿が見られました。また、交流広場の場外においても、自治体の担当者同士による名刺交換やパンフレットの配布など活発な交流が見られました。



交流広場の様子

会議を終えて

冒頭でもお伝えしましたが、当会議は今回で20回目を迎えました。国同士の関係が冷え込んだ時期もあった中、これまで一度も途切れずに開催できたことは、当会議が、日中韓3か国地方政府における交流促進と課題解決のプラットフォームとして重要な役割を果たしてきた結果だと思えます。今後も会議開催を通して、各国、各地域の相互理解と協力関係を深め、北東アジア地域の発展に貢献してまいります。

次回は愛媛県で開催！

第21回会議は2019年10月に愛媛県で開催されます。次回会議に関する情報は随時、当協会ホームページにてご案内いたします。奮ってご参加ください。